

絆だより

高齢社会を支える地域の絆づくりの会

第62号(7月号)

発行 2021年7月1日

編集発行 代表 大井利雄

連絡先

EMAIL: t-ooi31@jcom.zaq.ne.jp

TEL:090-6949-8984

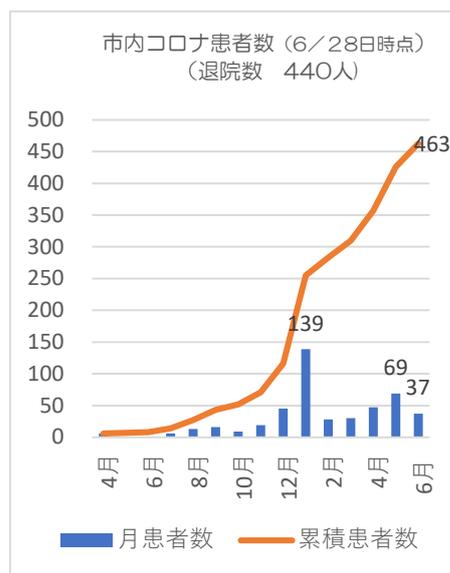
六つの自治会、地域に溶け込む三つの学校の活動

大井利雄

国立市内は、現在 73 の自治会・町内会があり順次活動を紹介しているが、今回は 6 箇所を報告する。地域の特徴を活かしながら、会員の高齢化と若い世代への引き継ぎ、会員増、集合住宅の呼びかけ等を工夫している。いざという時のために普段からの活動が重要である。コロナ禍で集会もままならないが、国立東南部自治会の、要援護者申請等の助け合いの仕組みは、他に青柳中央会、みどり会も行っている。日常の関連コミュニティの連携と活動による信頼感が根底にある。向う三軒両隣の小さな輪を大事にすることが広がりにつながるのではと強く思う。『どこまでやるか、町内会』は身知り合いの関係を重視する。

全国の中で 4 番目に面積の小さいコンパクトな国立市は、文教都市を象徴する個性豊かな学校が、多数存在する。今回紹介する三校は、地域との繋がりを大事に、種々の地域行事への参加や、企画を行っている。国立市外からの学生は、国立の良さを肌で感じ卒業後も愛着心を持ち続けているようである。東京女子体育大学の“伝統ある成果を、地域に還元する積極的な姿勢”、桐朋高等学校、国立高等学校に共通する“生徒の自主性に富んだ自由闊達な活動”は若さを市内に発露し貴重である。大学通りを歩く両校の生徒は明るい会話は、将来を担う頼もしい期待を抱かせる。

コロナは、緊急事態宣言を繰り返す中、収束が見えない。しかし防止対策を綿密に実施し、閉じこもることなく、工夫して活動している団体もある。ワクチン接種者も周囲でも増えてきた。自重しながら、フレイル予防も心体技の面から心掛けたい。次号発行時は、オリンピックは開催されているだろうが、ウガンダ選手団のような事態の起こらぬことを願うむ、心もとない。自宅で応援できることが良いことなのか、不確定要素多く悩ましい。



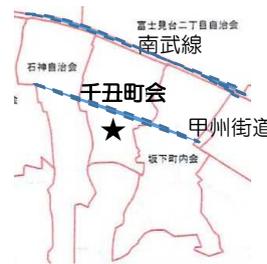
千丑町会の紹介 かつての谷保村の中心地 (6/03 取材)大井利雄・四ヶ所香代 (社協・CSW)

【由来】

字は峯上、下峯下、栗原がある。谷保天満宮のお膝許にあるので「千丑」は「中司」が転じたとも、古くはたくさんを飼っていたから(千牛)、あるいは、都の貴人が、この地で牛の血(血牛)を呑み快癒したからと様々な説がある。かつては昭和 50 年頃でも乳牛を飼っていたとのこと。

国立市第一小学校が、ある旧谷保村の中心地である。

現在の市役所の南側に位置し甲州街道をはさんだ地域で、青柳段丘面から下の湧水にかけての地域。旧上谷保村の東端のむらで、西隣の石神とは屋敷境で分かれ、東隣の旧下谷保村の坂下とは仮屋坂と呼ばれる小道と湧水の流れて隔てられている。大正末期には四十数軒あったという。石神との西南の境には、黄檗宗の藤井山円成院跡が、坂下との東北の境には、谷保天満宮別当寺梅香山安楽寺(天台宗)があったと古い記録にある。



千丑町会

【境界の複雑さ】

坂下・千丑・石神の各組は屋敷境界が複雑に入り組み、一家一族ごとにその所属が異なっていた。

【町会の発足】

寛政 5 年(1793)の「千丑念仏講役帳」の記録に千丑組の名がある。明治・大正・昭和を通して生活共同体である組を単位として営まれてきた。公選による初代国立町教育委員となっていた遠藤信太郎氏が中心になって、民主的な新しい自治組織をつくろうと、地域の人々と、千丑町内会を昭和 30 年に設立した。本町地区では最も早かった。その後昭和 41 年に千丑町会と改称。

【千丑集会場】

昭和 4 年千丑組椀倉(講中倉)建設(遠藤喜一郎氏屋敷内)。昭和 9 年に千丑公会堂が建設。昭和 21 年に現在の集会場に移転。昭和 40 年千丑町会公会堂敷地を町会が買収。昭和 61 年に千丑集会場が完成。運営管理は「千丑集会所運営委員会」が市から委託(指定管理者制度)を受けた。

【体制】

会長、副会長、会計 1 名、監査 2 名、総務部(資料作成他)、企画部(会全般行事)、文化部、防犯部からなり部長は 1 名で任期は 2 年。組長は 13 名で任期は 1 年、見守り、集金など(現在 13 組)

【千丑町会協力団体】

第一小学校育成会、千丑囃子会、千丑子供会、国立市消防団第三分団、千丑寿会

【町会の行事】

- ① 例大祭 町会発足後は祭典委員(祭礼委員)が祭に運営にあたり、万灯などの制作や運行等は青年団が担当し現在に至っている。
- ② 盆踊り(昭和 37 年頃までは青年団(谷保村青年団:結成大正 7 年)主催で、第一小学校の校庭で、本町と合同で実施、そのご青年団が衰退し中止となった。町会としては昭和 44 年以降、段々盛況になったが、盆踊りが一部の踊り手だけになった。平成 8 年頃他地区との交流を止め小規模化した。平成 17 年には全員で踊れる時間の工夫をした。場所は富士見台幼稚園を使用。
- ③ レクリエーション 行楽地へ行くだけでなく、小運動会、ゲーム大会を実施。

【広報】平成 17 年 11 月に『町会・はやし会のあゆみ(千丑創立 50 周年記念・千丑はやし会創立 55 周年記念)』を発行。行事があると、組長経由回覧板で伝達する。

【会員】120 世帯、約 250 名

【会費】年間 1200 円(昨年行事を殆ど開催出来なかったので今年度は徴収しない)

【町会の課題】

町会の境が行政区分と異なるので分かりにくく、新しい住民はどここの地区か戸惑う。昔は第一小学校で地区対抗運動会を行っていたが、地域意識が薄れ、消滅した。交流の場が少なくなり、隣人の動向把握が遅れがちで弱くなってきた。



町会・はやし会 創立記念誌

遠藤久 千丑町会長の言葉

お葬式が出た時、従来に比しあとで知ることが多くなってきた。まわりがしっかりと見守り孤立を防ぎたい。盆踊りや天満宮例大祭の声掛け、他地区との交流や千丑子ども会などでの触れ合う機会を多くし、活気があり、災害有事の際に強い地域作りを目指している。

取材をおえて(大井)

行政区画と異なる、旧谷保村のむらのつながりが、町内会を構成している。伝統を守りながら、交流を深める道を探る苦労がにじみ出ている。会長は和洋折衷の千丑茶屋のオーナー。

坂下町内会の紹介 温かいコミュニティをめざして

(6/25 取材)大井利雄・四ヶ所香代 (国立市社会福祉協議会 CSW)

【由来と地形】

坂下の名前の由来は、天神様に沿って、東から西への下り坂で、南側も低地になっているところからついた名前らしい。地形的には、青柳段丘と立川段丘が合流したところで、天満宮裏参道あたりは、急坂となっている。旧甲州街道を挟んで大きく上(北)と下(南)から成り、下には深淵な森を抱いた谷保天満宮が鎮座し地域の拠点となっている。字は仮屋上、栗原、天神下、出井崎からなる、かつての村組織の一つ。坂下は千丑の東隣で、谷保天満宮境内も含まれる。かつての下谷保村の西端に位置し、天満宮表参道前的大通りから、西へ坂下橋までの300メートル弱の甲州街道を中心に、南北に広がったむらである。旧甲州街道下の谷保地下歩道は昭和61年(1986)5月完成。

【町内会の発足】

昭和40年(1965)4月1日にそれまでの坂下組から坂下町内会として102世帯で発足。かつては各家庭で営まれていた冠婚葬祭等で料理づくり、買い物など家人に代わって行った。

【会費と会員】

会費は年間1200円、会員は206世帯(令和3年(2021)6月現在)
令和3年4月第57回定期総会を书面開催した。

【坂下集会所】

昭和7年(1932)頃から60年間愛され親しまれた公会堂が解体され、現在の地に市のコミュニティ施設として生まれかわり、平成3年(1991)3月に完成。管理運営は「坂下集会所運営委員会」が市から委託(指定管理者制度)を受けている。

【体制】

会長、副会長、事務局、会計(監査)、社会部、防犯部、厚生部、青年部、民生児童委員、子供会からなり本部役員は35名。定例役員会は原則毎月開催する。
他に地区長(地区数=6)、班長(班数=26)がそれぞれのとりまとめ役として活動。

【広報】

国立HPに年間行事予定表掲載。全戸配布

【坂下町内会協力団体】

若葉会(老人会)、坂下子供会、国立市消防団第四分団、坂下実行組合

【町内会の主な行事】(①~③は昨年はコロナで中止)

- ① 盆踊り 天満宮境内で実施。本大会6週間前から集会所で先生を招いて踊りの練習と太鼓の稽古を行う。国立第一小学校の先生方も盆踊り大会には参加される。平成23年(2011)の東日本大震災の年は中止となった。
- ② 天満宮例大祭 祭礼には他の町内会、自治会とともに参加。また獅子舞保存会(市指定無形民俗文化財)の主要メンバーとして活躍している。女性陣の手づくり料理は他市(鶴見、新座、立川)からもかけつける神輿の担ぎ手のエネルギーとなっている。神輿に使う桐の枝は、中平の杉田初男氏から頂いている。
- ③ どんど焼き
小正月に一年の無病息災を願って、繭玉に見立てたダンゴを焼き、お餅をつく。お焚き上げの炎は約20mまで上がり、魔よけの竹がパチパチと破裂する音が響き奉納する。(第四消防分団が警戒待機)。80歳以上の方(45名位)には紅白のお餅、ダンゴ、ミカンを届け、長寿をお祝する。
平成22年(2010)1月にはNHKラジオで全国放送された。
- ④ 歳末警戒パトロール 毎年12月27日、28日に歳末警戒パトロールを行い無事に新年を迎えられるように拍子木で「火の用心、戸締り用心」を呼びかける。
- ⑤ 一斉清掃 春と秋の2回、国立市美化推進協議会の呼びかけにあわせて一斉清掃を実施する。

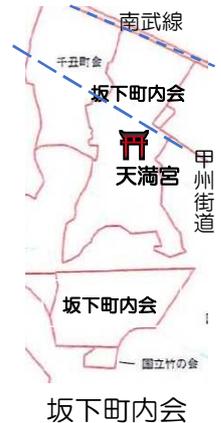
【町会の課題】

どこの町内会、自治会も直面していると思われるが、現代の会社勤めの若手はあまりに忙しく、ゆとりがないので地域の活動に積極的に参加できる人は少数だが、熱心に協力してくれる人も徐々に増えてきている。

昔ながらの農村地帯(下水道 北多摩2号幹線の完成により田舎の香水も過去のものになった)に新規の住宅開発が進んだため狭い道路が多く防災の観点からも南部地域の開発、整備が課題である。

本多 篤 坂下町内会長の言葉 地域の活動はコミュニティとして必要で重要であります。新型コロナウイルスのため令和2年度(2020)は東京オリ・パラオリンピックも延期され町内会活動もほとんどできませんでした。ゆるやかで温かいコミュニティ活動を今後もめざしたいと思います。

取材を終えて(大井) 青年団の交流で他市からも神輿担ぎにくるとは驚き。青年部、子供会、民生児童委員も含めたオール坂下コミュニティからなる町内会構成は、理想的である。



山車



神輿



獅子頭

国立会中の会の紹介 中地区唯一の自治会

(取材 6/6) 大井利雄

【はじめに】

西側は、西三条線、西 3 線、西四条線で西地区に接し、南は江戸街道、北側は JR 中央線、東側は大学通りに囲まれている。一橋大、桐朋小・中・高校、国立学園、都立五商、国立第八小学校など多数の学校と公民館がある、学園都市国立を象徴する地域である。国立の発展と共に歩んできた国立会は、昭和 51 年 11 月連合会組織となり「国立会東の会」「国立会中の会」に分割された。国立会中の会は地区内唯一の自治会である。



国立会中の会

【沿革】

- 昭和 3 年 9 月 西・中・東地域の住民が国立町会として発足
- 昭和 22 年 4 月 警防後援会に改称、昭和 23 年 7 月 国立会と改称
- 昭和 24 年 駅前が多摩信用金庫前に集会場完成
国立会機関紙「くにたち文化」創刊
- 昭和 51 年 10 月国立会は連合会組織とし、国立会東の会・国立会中の会に 2 分割
(西、北地域は独立)
- 平成 26 年 3 月 国立会 中の会 会報 新生版第 1 号発行
- 平成 28 年 10 月 社会福祉協議会主導で「中地区をつなぐヒト・モノコト中博～中のまち博覧会～」開催
- 平成 28 年 上記を受け、なかなかいいね！プロジェクト なかなかいい会 活動開始(下記 2 件)
- 平成 30 年 二小、五小、八小 子どものあいさつ(見守り) 地域展開(なかなかいい会)
- 令和元年 子ども食堂補助金交付事業たまご食堂開催(なかなかいい会)
- 令和 2 年 会長交代、砂原十郎氏から市川美智氏へ



【広報活動】

国立会中の会 会報 (タイトル右図)

平成 26 年 3 月 31 日新生版第 1 号発行 (発行 年 4 回)

HP <https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/kurashi/community/1546829520189.html>

【会費と会員】

平成 9 年より 19 年まで簡易保険の払い込み団体として手数料が入り、活動費に使用したが、平成 27 年度をもって終了した。

現在は年間 500 円。会員は 336 名 (令和 3 年 3 月末現在) (総世帯数 4,495 : 2019 年度)

【主な活動と共催】

理事会、総代会、お喋り会、大学通り清掃、秋の日帰り親睦旅行・事業所見学、東の会・中の会・西の会の交流、社会を明るくする運動参加、福祉事業に協力(福祉まつり、バザーほか)

【役員及び委員】

会長、副会長(1)、書記(庶務)(1)、会計(2)、監事(2)、自主防災部(1)、その他の理事担当の係として企画事業係、環境美化係、安全サポート係、広報係から理事会を構成している。現在理事会員 12 名、その他地区委員が 28 地区 28 名(理事会は奇数月開催)

【協力支援団体】

なかなかいい会、環境浄化協議会、社会福祉協議会評議員会

【会の目的】 会員相互の親睦を厚くし、会員居住地と友愛と互助の上に、真に明るく、住みよい理想郷をつくりあげることが目的とする。

【会の活動】 目的達成のために次の活動を行う

- ・親睦と友愛とに関すること
- ・生活環境と改善に関すること
- ・文化活動に関すること
- ほか

【課題】

- ・会員増強と各部門の強化：加入率約 8%、集合住宅の加入者が少ない
- ・役員の高齢化、次世代者の参加 ・育成会、老人会との連携など地域への浸透
- ・広域にわたる為、統一目標の情報共有と人の交流が限定され。特定の人集まりになりがち
- ・交流の煩雑さを嫌って移住している人も多数いる。自治会に入る魅力の浸透をどうするか

市川美智 会長のことは

国立会中の会は、人と人との繋がりを大切にしながら自治会活動をしてゆきたいと思います。その為には、若い人の力が必要不可欠です。一人でも多くの方のご参加をお待ちしております。

取材・調査を終えて(大井)： 広大な地域であり、住民の求心力と掘り起こしが大変と感じた。「中の会会報」は多彩な活動と特徴を伝えている。木島書記のご確認ありがとうございました。

国立西の会の紹介 西地区最大地域

取材(6/11) 大井利雄

【はじめに】

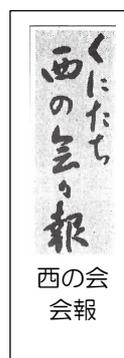
東側は、西五条線、西3線、西五条線で中地区に接し、南は江戸街道、北側はJR中央線、西側は三和会、柳交会、他の自治会と接する。西地区最大の自治会地域内に、国立第二小学校、第二中学校、郵政大学研修センターが含まれる。かつて国立会に属していたが昭和28年に独立した。

【沿革】

- 昭和3年 9月 西・中・東地域の住民が国会として発足 34世帯
- 昭和22年 警防後援会に改称
- 昭和23年 国会と改称
- 昭和24年 駅前の多摩信用金庫前に集会場完成
国会機関紙「くにたち文化」創刊
- 昭和28年 東・中・西支部と分離独立
- 昭和29年 第1回文化祭を国立町第二小校校庭・校舎で開催
- 昭和32年 国立中学校分校(現二中)
- 昭和50年 六団体(西の会・西商店会・柳交会・十日会・青柳都営・三和会)
共催盆踊り大会
- 昭和51年 西の会・西商店会の共催盆踊りとなり現在に至る。
- 昭和51年 西福祉館開館
- 昭和53年 創立25周年記念公演、演歌歌手選定で意見分かれた後遺症で
役員が町内毎に分裂し会活動が一時中断。
- 昭和56年 新生西の会として再出発
- 平成2年 婦人部創設(平成9年地域活動部と名称変更、平成22年廃部)
- 平成8年 西の市(国立音大付属中・高校校舎広場)に初めて参加
- 平成15年 創立50周年記念
- 平成17年 くになち西の会会報 特集号座談会で綴るく国立西の会の歩み
- 平成26年 社会福祉協議会の主導で、西地区他自治会、住民と共に
「くにたちの西がいちばん!プロジェクト」立ち上げスタート
- 平成27年 西のまちマップ完成、国立西の会 創立60周年記念号 発行
- 平成30年 4月 避難所運営訓練 フジテレビにて放映



国立西の会



【広報活動】

西の会々報 昭和53年第1号発行(発行年3回)
記念誌 平成27年 国立西の会 創立60周年記念誌 発行
HP 国立西地域プラザ <https://nishinokai.localinfo.jp>
メール kunitachi.nishi-no-kai@dream.jp

【会費と会員】

平成9年より19年まで簡易保険の手数料が入り、活動費に使用した。
現在は年間1200円。会員は 380世帯(令和2年度現在)

【主な活動と共催】(①、③、④、⑤は昨年コロナで中止)

- ① 春のウォーキング、②三和会・西の会との合同防災訓練、③盆踊り、④秋の旅行、⑤七福神巡り
- ⑥ 一斉清掃、⑦小中学校行事協力、⑧俳句の会

【役員及び委員】(令和3年度)

会長、副会長(2)、総務部(2)、事業部(2)、広報部(2)、会計(2)、会計監査(2)、防災部(4)、相談役(1)、以上役員18名、他に地区委員全員(31地区、30名)、定例会は、毎月、西福祉館で開催

【協力団体】

西商店会、くにたちの西がいちばん!プロジェクト

【活動方針】

会員相互の親睦を図り、地域の発展と福祉の向上を目的とする。

【課題】

- ・ 少子高齢化の時代、若い人たちを含めた地域の連帯を深める活動が必要である。
- ・ 会員の増加と同時に、地域の安心・安全、そのための防災・防犯の組織強化が必要である。
- ・ 地域の中心である、小中学校の参加もできる活動を加えることも大事である。

関戸 勉 会長の言葉

平成19年から会長をつとめ、多くの会員が楽しめる、ハイキングや、俳句会などの提案で、会が一体として前向きになるよう心掛けてきました。西の会の、規律や束縛性の少ない、自由さを大事にしたいと思っています。

取材を終えて(大井)

古くから居住の一戸建ての住民が多い。集合住宅を含めて新しい住民の参加が増えるよう「くにたちの西がいちばん!プロジェクト」と融合した相乗効果が出ることを期待する。前野副会長のご協力に感謝いたします。

参考資料 『国立西の会 創立60周年記念誌』

国立市三和会の紹介 笑顔のある町内会を目指して

取材 (6/11) 大井利雄

【はじめに】

西側は立川市、東側は西五条線で西の会、北側は西 4 線で柳交会、南側は郵政研修センターに接する。西一丁目、二丁目の西側に位置する北西区域。西福祉館が域内にある。三和会設立当時は、雑木林ばかりで、人家もまばらであり、ガスも上水道も排水路もなかった。しかし空気はきれいだった。当時の会員の読んだ句に

バス降りて帰路蝉の声今日も聞こえず 一尾

【沿革】

- 昭和 3 年 9 月 西・中・東地域の住民が国立会として発足。
- 昭和 22 年 警防後援会に改称、昭和 23 年 国立会と改称
- 昭和 24 年 駅前の多摩信用金庫前に集会場完成
国立会機関紙「くにたち文化」創刊
- 昭和 28 年 西の会より分離独立（街灯をつけるために結成された?）
- 昭和 32 年 国立中学校分校（現二中）開校
- 昭和 50 年 六団体（西の会・西商店会・柳交会・十日会・青柳都営・三和会）
共催盆踊り大会
- 昭和 53 年 集会場建設の請願
- 昭和 54 年 西福祉会館開館、25 周年記念誌発行
- 平成 15 年 創立 50 周年記念誌発行



三和会地域

【広報活動】

記念誌 平成 15 年 創立 50 周年記念誌 発行

【会費と会員】(令和 2 年度)

年間 2400 円(法人 6,000 円)。会員は 170 世帯

強制ではないが、盆踊りや実行のための寄付金や実費のかかるイベントがある。旅行などは補助金を出す。

【主な活動と共催】

新年会、お花見、道路清掃（市の『ごみゼロ運動』にあわせて年 2 回）、防災活動（消防署や他地域の防災組織との連携）、盆踊り(第二小学校校庭)、秋の旅行、小中学校行事協力

【役員及び委員】(昭和 54 年度の町内機構と業務内容)

会長（会務の総括、役員会の招集）、副会長(会長補佐)、相談役、会計監査、総務部（一般庶務、町会誌、運営書類）、会計部、文化部(社会福祉、一般文化の向上、老人対策)、防犯部（防犯灯整備、防分事項全般、防災訓練）、衛生部（町内清掃、消毒、薬品配合、配給）、青少年部（地域に於ける活動計画レクリエーション等）

任期は 役員は 2 年 班長は 7 班 7 名で 1 年

【協力団体】

第二小学校育成会、第二中学校、西商店会、立川警察署

【活動方針】三つの和

- ・ゆるくつながる地域の和
- ・笑顔であいさつ楽しい和
- ・イザという時の助け合いの和

【課題】

- ・災害時の避難場所生活不安の解除
- ・遠くの親戚より地域の和
- ・こどものイベント実施企画



創立 25 周年記念誌



創立 50 周年記念



会員募集チラシ

竹間千里 会長のことば

イベントを通して親交を温め、顔見知りになり挨拶を交わせる『仲間』を増やしたい。『一人住まいの方』や『お子さんのいる家族』など、地域の人たちの『声』や『目』を身近に感じられる安心感を広めていきたいと思っています。ご賛同・ご協力頂ける方の入会をお待ちしています。

取材を終えて (大井)

記念誌を 25 回、50 回と発行し、インフラづくりの歴史を伝えている。三つの和が基本。

参考資料 三和会創立 25 周年誌、50 周年誌

国立東南部自治会の紹介 街灯点灯活動から始まった 取材・調査 (6/21) 大井利雄

【はじめに】

昭和 20 年代に発足した「国立東南部街灯会」が発展的に解消し「国立東南部自治会」として昭和 41 年 6 月に発足した。大学通りと東一条線（一中通り）学園通りに囲まれた東四丁目の一部と富士見台 1 丁目の一部の住民で構成されている。国立高校が域内にある。

【歴史】

- 昭和 20 年代 国立東南部街灯会
- 昭和 41 年 国立東南部自治会創立（国立東南部街灯会の改称）
- 昭和 42 年 国立市制へ
- 昭和 63 年 市からの街灯補助金打ち切り、市へ段階的に移管
- 平成 6 年 市へ街灯を完全移管
- 平成 20 年 火災報知器一括購入
- 平成 27 年 防災部を新設。第 1 回安否確認訓練を実施
- 平成 28 年 創設 50 周年記念式典・祝賀会、記念誌発行
- 平成 29 年 国立高校前の大学通り緑地帯に、しだれ柳を植樹



安否確認訓練



自治会幟



国立東南部自治会

【広報活動】

会報（発行年 3 回）（令和 3 年 5 月現在 130 号）全会員配布
記念誌：国立東南部自治会 創立 50 周年記念誌を発行（平成 28 年）

【会費と会員】

年間 1200 円。会員は 27 地区 220 世帯（令和 2 年度）

【主な活動】

見学会・講習会・勉強会、歩こう会（平成 16 年より実施）、
ゴミゼロ（一斉清掃）、合同防災訓練

【役員及び委員】（令和 3 年度）

会長、副会長（1）、総務（2）、福利厚生（3）、福祉（2）、環境保全（防犯連絡委員、防火連絡委員）（6）、広報（1）、会計（2）、監事（2）、防災（9）、東福祉館運営委員（2）名・兼務 5 名）、地区委員 全員 27 地区 27 名

【地域活動への参加】

- ・谷保天満宮四丁目祭礼
- ・都立国立高校（文化祭演劇・音楽会・防災活動など）
- ・国立市環境フェスタ、レジ袋ノーデー推進
- ・国立市総合防災訓練。同東地区防災訓練
- ・立川警察署・消防署及び国立市防犯協会の諸行事
- ・東福祉館運営委員会
- ・国立三小・一中避難所運営委員会

【活動方針】（会の目的）

1. 会員相互の親睦及び弔慰
2. 防犯、防火、防災、清掃等による環境保全
3. 文化、福祉の向上及び地域活動への参加

避難場所まで移動できない人への誘導。安否確認がとれない人の対応など、市の防災訓練日とは別の東地区自治会としての統括的訓練を計画している。

【安否確認や避難誘導を行う「助け合いの仕組み推進」】

災害時の安否確認や避難運動のため、要援護者（現在 14 名）、支援者登録（現在 28 名）制度を推進している。災害時にそなえて普段からどこまで個人に立ち入れるか、どの程度支援を行えるかは本人の同意書と情報提供の信頼感を得る準備が鍵。提出された支援者登録申請書の内容により、近くに住む「要援護者」を決め、支援をお願いする「要援護者の方」を後日自治会より連絡する。

【課題】

- ・会発足以来の住民が多く、高齢化になり、自立した子どもが戻らず、独居者が多くなっている。
- ・一戸建てが多く、世帯数の減少が続いており、世代へのつなぎ対処が必要である。

林 俊雄 会長のことは

いざという時の助け合いが必要であり、日頃からお互いが知り合うことが大事である。そのために日頃の自治会活動が活性化するよう努めている。そのために三つの「わ」として「和」「輪」「話」を大事にしている。

取材を終えて（大井）

安否確認「助け合いの仕組み」が素晴らしい。日常での地域内の緩やかな親密な活動が、あってきたと思う。



50周年記念誌



要援護者登録申込書

東京女子体育大学・地域交流センター活動紹介

(訪問 5/26) 大井・宮武・三好・伊藤

【はじめに】

学校法人藤村学園（学園の基礎を築いたのは、藤村トヨ）により、東京都国立市内に設置（1961年武蔵野市吉祥寺より移転）されている私立大学。1902年創立の東京女子体操学校を源流として、日本初の女子体育教師養成学校として創設され、藤村トヨの建学の精神を基底に据えて、「極・匠・伝・濃」の教育スローガンのもと、新たな「知」の創造と活用を通じて、社会や人類の発展に貢献する人材を育成している。大学の略称は東女体（とうじょたい）、TWCPPE（Tokyo Women's College of Physical Education）。併設校に東京女子体育短期大学がある。オリンピックなど国際大会に多くの代表を輩出している。地域との交流を深めるため1995年より公開講座を開講している。入学定員は、340名、短期大学は120名である。



藤村トヨ先生

【沿革】

年	月	事項
1893・明治 26	11	高橋忠次郎ら「日本遊戯調査会」設立
1902・明治 35	5 11	「私立東京女子体操学校」を小石川区富坂町に設立(場所は、その後多数回に及び移転) 「私立東京女子体操音楽学校」に改称
1908・明治 41	3	藤村トヨ第4代校長就任(1955年学長として逝去)
1922・大正 11	4	日暮里から移転、北多摩郡武蔵野村吉祥寺の新校舎開校式(校地総坪数:2,246坪)
1944・昭和 19	3	専門学校令に基づき東京女子体育専門学校(修業年限3年)に昇格
1950・昭和 25	4	東京女子体育短期大学に昇格
1951・昭和 26	4	学校法人藤村学園を設立(1955年藤村トヨ逝去)
1960・昭和 35	3	4年生大学設置のため北多摩郡国立町青柳谷川上に校地(14,484坪)を買収
1961・昭和 36	9	国立の新校舎への移転完了、落成式を行う(校地総坪数:11,462坪)
1962・昭和 37	4	東京女子体育大学が開学。伊澤エイ学長(藤村トヨ妹)就任。短大学長も兼ねる
1985・昭和 60	8	全天候型公認陸上競技場の改修完了
1987・昭和 62	3	温水プールなど体育館新築
2002・平成 14	11	創立100周年記念として新体育館竣工。『藤村学園100年のあゆみ』発行
2003・平成 15	4	地域交流推進室設置(翌2004年地域交流センターと改称)
2012・平成 24	11	創立110周年、第50回藤園祭『飛翔~110年の伝統を胸に~』
2013・平成 25		国立市と包括連携協定を東京女子体育短期大学と共に締結(2015年立川市と締結)

【公開講座のあゆみ】

年	事項
1994・平成 6	池田理事長より「本学の生涯スポーツ」についての諮問があり、公開講座発足の準備に入る
1995・平成 7	公開講座スタート(受講料1回1000円)
1997・平成 9	公開講座にあたって、立川市との共催、国立市後援を依頼
1999・平成 11	受講料を無料とする(傷害保険200円)、福生市に共催を依頼(カヌー教室)
2003・平成 15	地域交流推進室設置、教科目として「ボランティア講座」開始
2004・平成 16	地域交流センターに改称
2011・平成 23	府中市に後援を依頼
2012・平成 24	「社会奉仕体験理論」を「ボランティア理論」に変更
2013・平成 25	「社会奉仕体験実習」を「ボランティア実習」に変更
2014・平成 27	『地域交流センター公開講座20年のあゆみ』を発刊



国立市との締結

【公開講座により地域の人と交流が深まることを願う】

大学の施設で教員・職員・学生が地域の人と交流する機会を維持継続することにより深め、大学を知ってもらい、地域を学ぶことができる。(公開講座実施20周年を迎えて、高井元理事長の挨拶より)
公開講座が発展し、地域との交流が自然に流れる川のように清く美しく続いてゆくことを願っている。(20周年を迎えて 加茂元学長の挨拶より)

【公開講座の意義】

体育大学の専門性を、高校スポーツの支援に役立てる。
大学の資源(施設・研究など)を開放し、生涯学習の場を住民に提供する。
地域住民の貴重な交流・親善の場となる。

【公開講座参加者】

地域別にみると立川市 23%、東大和市 9%、国立市 8%、福生市 8%、府中市 6%、他の地域から 46% (令和元年度調査)となり、後援・共催の 3 市はじめ近隣 5 市が全体の 5 割近くを占めており、地域に定着し近隣住民に人気と好評を得ている。

【公開講座例】



高校生講座(バスケット)



成人講座(やさしいヨガ)



幼児教室(絵本から広がる子育て)



成人講座(大人のラジオ体操)

【藤園祭】毎年 11 月 3 日前後に一般市民にも公開するイベント。子供向けの行事もある。(昨年中止)

【地域交流センター事業内容】

地域に貢献できる開かれた大学をめざし、地域社会と積極的にふれあい、本学の教育、研究により長年培った成果を、地域の方と共有する充実した講座を開講している。また、さまざまな地域貢献活動を通し、公開講座以外にも次のような事業で、地域との活気に満ちたコミュニティーづくりを目指している。

事業名	内容
公開講座	「建学の精神」を踏まえ本学の研究・教育の成果を開放し生涯学習を提供するとともに、地域の方々が楽しみながら学べる講座を開講している。2021 年度は 26 講座予定。受講料等：無料
ボランティア派遣	ボランティア活動が社会性や豊かな人間性を育むという教育的側面に着目し、ボランティア活動の積極的推進を図るために、専門的な知識を学ぶボランティア講座の開講、ボランティア情報の管理および学生等への紹介を行っている。本学の特性である体育・スポーツ・教育などの領域を中心に、教員や学生個人、クラブなどを地域の要請に応じて派遣する。主な内容には、障がい者福祉、高齢者福祉、学校教育活動支援、生涯学習活動支援、社会体育活動支援などがある。
定期レッスン(有料講座)	体育大学としての特色を生かして、地域のお子様を対象に定期レッスンを開設している。新体操は、初心者、経験者、それぞれの対象にあわせて、より専門的な講座である。
ジュニア・ユースクラブ(会員制)	地域の子どもたちに向けて地域貢献を目的に大学を開放し、継続して専門的に学べる新体操、ヒップホップ、サッカーのジュニア・ユースクラブを開講している。

【地域との交流】

地域交流センターは、学内で「ボランティア講座」を企画・実施するとともに、学外からの各種訪問、専門講師派遣、出張講師など、近隣地域のニーズに応えるよう学生へのボランティア活動情報の管理や派遣等ボランティアに関しての窓口として地域と大学をつなぐ役割を担っている。

学びを地域に還元し、要請に対しては積極的に対応する。

教室・体育施設を使って、自分たちの学びの啓発のためにも社会貢献をすることは義務であるとの意識は高い。

国立市とは、「包括連携協定」に基づき、定期的に連絡会議を行い、矢川プラスの企画に参加するなど意見交換を行っている。

商店街(旭通り、矢川メルカードなど)、自治会などの行事についても協力・参加している。

くにたち社会福祉協議会ボランティアセンターとも、適宜情報を交換し活動の機会を作っている。

現在のコロナ禍においては、体育実技や日常において自己管理の徹底を、指導している。



ボランティア情報を確かめる学生

鷹野二三子 地域交流センター事務室長の言葉

令和 3 年の今年、国立市に大学が移転し 61 年目となります。地域交流センターは、近隣住民の方との交流を深めてまいりましたが、これからも体育、児童教育を学ぶ学生達の特色を活かしたボランティア活動を支援し、社会貢献活動を続けたいと思います。

本学は、令和 4 年で創立 120 周年を迎えます。時代のニーズにお応え出来る様に、皆様の変わらないご支援をお願いいたします。

取材を終えて(大井)

日本初的女子体育教師育成学校である。伝統ある成果を、地域に還元する積極的な姿勢が貴重である

引用資料 ①『藤村学園 100 年のあゆみ』②『地域交流センター公開講座 20 年のあゆみ』③ホームページ

桐朋中・高等学校 紹介 自主自立の精神を養う (取材 6/4) 大井利雄・大塩英夫・三好紀子

【はじめに】

東京都国立市中三丁目に所在し、高等学校において、中学校もしくは小学校から入学し、または幼稚園から入園した内部進学の子と高等学校から入学した外部進学の子が、高等学校第 1 学年から混合してクラスを編成する併設混合型中高一貫校。学校法人桐朋学園によって運営されている。

【立上げ由来と校章】

転勤の多い陸海軍の子弟の教育を目的として、寄宿舍のある学校設立を求めていると伝え聞いた山下汽船の山下亀三郎が私財寄付金 1 千万円を申し出た。寄付金を基に昭和 16 年第一山水中学校(「山」は陸、「水」は海を意味する)として設立された。

開校すぐに終戦を迎えたため、軍系列として廃校の危機を迎えた。東京文理科大学(現在の筑波大学)が引き取って財団法人桐朋学園設立し、協力校として出発し、同大学の務台理作学長が桐朋学園初代の理事長と校長を兼任した。東京文理科大学・東京高等師範学校(のちの東京教育大学、現在の筑波大学)の校章の「五三の桐」に由来して「桐の朋」桐朋と名付けられた。そのため、「五三の桐」を校章としている。



校章

【山水学園綱領】

海行かば 水漬く 屍 山行かば 草生す 屍 天皇の 邊にこそ死なぬ 顧みはせし

【校風】

元々軍人子弟養成の学校であったが学費などを定めた学則以外に、戦後は学校のあり方を大きく変え、自由の精神と民主主義を校是としたことが、校則の少なさに繋がっていると思われる。

- ・自由な校風 のびのびと夢を描く
- ・個性の尊重 それぞれの夢を育む
- ・文化の創造 社会に新しい風をもたらす

【沿革】

年	月	事項	
1940	S15	9	中学校敷地を谷保村谷保の現在地に決定。敷地面積 22,680 坪東西 180 間、南北 126 間
1940	15	11	山下汽船株式会社社長山下亀三郎からの献金を基にして、財団法人山水育英会を設立
1941	16	4	第一山水中学校開校(1 年 182 名、2 年 22 名(軍人所属 137 名))
1942	17	10	校舎・講堂・体育館・寄宿舍等落成。落成祝賀会開催の 10 月 30 日を創立記念日とする
1945	20	3	第一回卒業式(4 年 124 名、5 年 22 名 同時卒業)
1947	22	4	財団法人山水育英会および第一山水中学校を解散。財団法人桐朋学園設立。桐朋第一中学校発足。務台理作、校長に就任
1948	23	4	新学制により桐朋高等学校・桐朋中学校(名称変更)に改編する。
1949	24	2	財団法人桐朋学園を学校法人桐朋学園に組織変更。
1950	25	1	校歌制定。作詞：佐藤春夫 作曲：信時潔
1951	26	5	村山マラソン実施(高校 9.2km、中学 7.2km)～1970
1951	26	7	『桐朋学報』(PTA 研修誌)発行
1952	27	5	金子教諭、ヘルシンキ・オリンピック体操団体 6 位入賞
1956	31	8	プール完成
1957	32	9	高校バレー部 東京都優勝
1958	33	11	小学校併設
1959	34	9	桐朋祭(名称のみ復活)
1963	38	3	校舎近代化に着手、高校校舎落成
1964	39	3	高校生生徒手帳から制帽制服を外す(翌年度から)
1964	39	11	弁論部主催 都下高校弁論大会
1972	47	7	日本棋院桐朋支部成立
1973	48	4	隣地東側マンション建設計画対策委員会を設け検討
1973	48	10	岡田進東京都松沢病院院長講話「青少年の精神衛生」(教員対象)
1976	51	5	「憲法記念日国立市民の集い」(小学校講堂)
1981	56	3	体育館新築完成
1985	60	3	プール・クラブ器具庫落成
1992	H4	3	高Ⅲ棟校舎新築完成(50 周年記念事業)
1997	9	2	中学入試を 2 科目から 4 科目に変更
2008	20	4	2009 年度からの高校推薦入試廃止を決定。
2012	24	6	桐朋学園男子部門創立 75 周年記念事業
2015	27	7	新中学棟新築落成
2016	28	11	新校舎竣工
2021	H3	3	囲碁班第 15 回全国高等学校囲碁選抜大会において、団体戦で全国優勝。
2021	H3	4	原口大助 校長に就任



校舎全景(2017 年)

【教育目標】

- ① 自主的態度を養う ② 他人を敬愛する ③ 勤労を愛好する

【定員と内訳】

定員(一学年)

高等学校	中学校	小学校
308	252	72

桐朋高等学校 生徒 居住地域 (令和二年度)

合計	市内在住	多摩地区(含む国立)	都区内	神奈川在住	埼玉在住	他
955	44	546	285	87	34	3
	5%	57%	30%	9%	4%	

【公開行事】

桐朋祭 (生徒による授業など)・自由研究展示会

【地域活動】

単発的ではあるが、生徒の自主的な企画により地域内活動を行っている。

桐朋祭、展示会などの開催案内などで、市や地元との折衝で触れ合いを体験する。

【活動の事例】*1 生徒会の主催。*2 各学年の教員主催。*3 公民館・各小学校の先生方との連携。

*1 大学通りの緑地帯の花壇作りとごみ拾い(中学生生徒会)・運動部は、国立高校との交流試合が多い。

*1 ウィンタースクール (国立市に在住または在学している小学生3年生から小学6年生を対象)

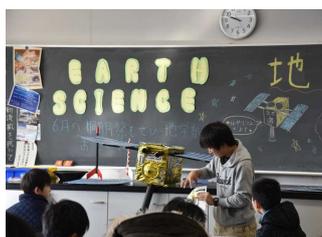
*2 ホームルーム活動として車いす体験、車バスケットの交流

*3 プラネタリウム上映 (毎年8月下旬の土曜日に、市内の親子向けに開催。当初は国立市民向けだったが、公民館だよりでお知らせし、事前予約制と定着した。さらに、市内にある8つの市立小学校の主に4年生を対象に、理科の授業の一環として、学習上映を年に一度ずつ行っている。)

ウィンタースクールの参加者 市内小学校の児童、複数のクラブに参加した延べ人数として百名余り。



ウィンタースクール 化学部



ウィンタースクール 地学部



プラネタリウム上映

【生徒の国立市への思い】

卒業生約2万4千人いるが、大学通り、旧駅舎を懐かしみ、恵まれた環境で過ごしたことが満足感につながり、国立に熱く強い思いを抱いている。定期的に行われる卒業生との懇親会などOBとの交流も活発で、生徒たちの勉学への支えとなっている。教諭も国立に愛着を持って指導している。

【桐朋学園の構成】※男女共学

男子部 (所在地は国立市) 桐朋学園小学校※、桐朋中学校、桐朋高等学校

女子部 (所在地は調布市) 桐朋幼稚園※、桐朋小学校※、桐朋女子中学校・高等学校 (普通科)、桐朋研究所

桐朋学園音楽部門 (調布市・富山市): 桐朋学園大学音楽学部、桐朋女子高等学校音楽科

桐朋学園大学院大学、桐朋オーケストラ・アカデミー、子供のための音楽教室桐朋学園芸術短期大学※

取材の感想(大井)

他校との交流、桐朋祭、独特の自由研究展示会など生徒の自主活動が印象に残る。クラブ活動も盛んで国体出場も果たしている。自分を見つけ、将来を志向する姿勢を持っている。その結果として希望の学校へ進学する。多摩の山々への遠足は、多摩の自然を体感する行事であり今後も続けてほしい。先生方も、海外留学・研修、外部からの講師による研修、『桐朋学報』(PTA 研修誌) 発表など、視野がひろく生徒への良い循環をもたらしていると思います。

原口 校長の言葉

桐朋は、今年80周年を迎えます。これまで一貫して大切にしてきたことは、自主・自立の精神を身につけ、互いの個性を尊重し、協働する姿勢を育むことです。今後は、「自律的な学習者の育成」に力を入れ、先行き不透明な時代を切り拓く意欲と力を持った、たくましい青年へと導いてまいります。

参考資料 桐朋中・高等学校 五十年誌、年表(1991年発行)、HP

東京都立国立高等学校紹介 国高から未来を拓く

(訪問 6/18)大井利雄・宮武光吉・鶴田美緒・伊藤真理子(国立市社会福祉協議会)

【はじめに】

昭和 15 年東京府立第二中学校内に府立第 19 中学校として併設された。昭和 16 年府立国立中学校と校名を変更、昭和 19 年 3 月に国立に移転。当初は山水中学校の一部を借りて授業を開始し終戦をはさみ校舎完成に 3 年を要した。昭和 23 年学生改革により、都立国立高等学校となった。当初は男子校だったが昭和 25 年、男女共学性が実施された。昭和 55 年東京都西地区で優勝、都立高等学校で初の甲子園出場を果たし、国立市民を熱狂させ、さわやか国立としてその名を全国に知らしめた。

【校章の由来】

万葉集 聖武天皇御製 「橘は実さえ、花さへ、その葉さへ枝に霜降れど、いや常葉の樹」より。永久不変の高潔な節操と忍従の力を象徴する。



【校訓と期待する生徒の姿】

「清く 正しく 朗らかに」を校訓に、文武両道の校是の下、学習活動、学校行事、部活動などに優れた成果を上げ、「奥の深い聡明な人間を育てること」を目標として世界に貢献できる有為な人材を育成してきた。また、進学指導重点校として、国公立大学や難関私立大学への進学を目指し、質の高い学習活動を実践している。毎年万人を超える来場者がある「国高祭」(文化祭、体育祭)をはじめ、プロのオーケストラと共演する「第九演奏会」、高いレベルの部活動等、充実した高校生活を送っている。

【教育目標】

人間性豊かに成長することを願い、将来有為な社会の形成者となることを希求し、次の目標を掲げて教育を推進する。

- I 自主性を持ち、責任を重んずる人になる。
- II 明朗な気風を養い、個性と創造力の豊かな人になる。
- III 社会に貢献し、困難・辛苦に耐え得る人になる。



【沿革】

年	月日	事項
1940(S15)	1.12	東京府立第十九中学校として開校認可 東京府立第二中学校内に併設され、同校松井秀男校長が校長を兼務する
	4.3	第 1 学年 160 名入学
	7	東京府北多摩郡谷保村国立 140 番地の校地買収 (33, 058 m ²)
1941(S16)	4.1	東京府立国立中学校と校名変更
1943(S18)	7.1	東京都立国立中学校と校名変更
1944(S19)	3	国立に移転。当初は山水中学校の一部を借りて授業を開始
1945(S20)	3.29	第一回生 106 名、第二回生 135 名の卒業式を行う
	4.1	東京都北多摩郡谷保村国立 140 (現在地) に木造校舎一部完成。1・2 年授業開始
1946(S21)	5.14	山水中学校より新校舎に引越しを行う
1948(S23)	4.1	東京都立国立新制高等学校と改称 (3 学年は併設中学校生徒)
1949(S24)	3.24	卒業生徒数、中学校 533 名
1950(S25)	4.12	男女共学制実施、男子 203 名、女子 102 名入学
1955(S30)	7.12	京都平安神宮より橘の苗本の下付あり、之を庭に植樹
1958(S33)		第 1 回マラソン大会
1964(S39)	5.15	生徒クラブ部室工事開始
1969(S44)	3.31	北側校舎改築 (鉄筋 3 階建 3 教室)。プール (25m) 工事完成
1977(S52)	4.21	新入生歓迎会を行う。(パーターベン第九交響曲を初演、立川市民会館)
1980(S55)	8.8	野球部甲子園出場(第 62 回全国大会)
1982(S57)	3.25	新入試制度による第一回の入試〔学校群制度からグループ選抜制度へ〕
1988(S63)	11.30	3 年小山洋、青少年科学賞において内閣総理大臣賞受賞
1998(H10)	3.10	卒業生生徒総数、高校 50 回、19,179 名
2000(H12)	4.1	学校運営連絡協議会設立 (試行校)
2002(H14)	9.12	進学指導重点準備校に指定される。
2003(H15)	11.27	進学指導重点校に指定される

2010(H22)	4.30	創立 70 周年記念式 (昭和女子大学・人見記念講堂)
2016(H28)	4.1	英語教育推進校指定、アクティブラーニング推進校指定
2020(R02)		創立 80 周年記念コロナで中止
2021 (R03)	4.1	理数研究校に指定される
	6.26	創立 80 周年記念に代えてオンライン同窓会による山極前京大大学長と在校生との対談実施

【定員と内訳】

定員(一学年)

生徒の出身中学校地域 (令和三年度四月)

	推薦選抜	学力選抜
男子	32 名	132 名
女子	30 名	122 名
合計	62 名	254 名

市内	17	私立	13
多摩地区	842	他府県・他	15
区部	74	合計	961

*定員は募集時にあたって都が定めた数で、実際の入学者数は多少の変動がある。

【地域公開】

- ・第九演奏会：驚きの連続となる“新入生歓迎会“

指揮者・オーケストラ・ソリストにはプロの演奏家を招き、第四楽章の「♪ 歓喜の歌」を歌う合唱団は約 400 名の、2・3 年生の音楽選択生徒および有志で結成している第九サークル参加生徒からなる。演奏する生徒と鑑賞する生徒それぞれが音楽を通して芸術文化に接する機会となり、また近年では地域の方々を招待して、国高と地域とを結ぶ文化交流の場ともなっている。



第 9 演奏会

- ・国高祭

文化祭・体育祭・後夜祭からなる国高祭は、エネルギーな魅力ある学園祭として、地域の高い評価を得ており、毎年参加者数は延べ一万人にもなる。日本一の文化祭と云われ、全力の感動を与える。



国高祭

【地域との関わり合い】

国高は災害時に地域住民の一時避難所になっており、災害時に高校生のなす役割は大きいものであり、国立市立第三小学校の防災訓練に、国立市立第一中学校とともに参加。三小・一中・国高の合同ニューイヤークンサートを育成会、旭通り商店街の皆様とともに実施している。

夏休みボランティアとして、一中の生徒に対して勉強をみている。

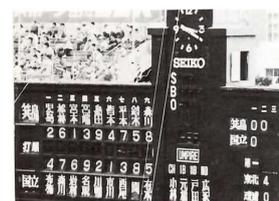
南養寺遺跡発掘調査に携わった。

【ボランティア同好会】

国立市社会福祉協議会と協力し、くにたちカルタの活動に参加、カルタを通じ地域と和から輪をと広げ国立市を元気溢れる町にしたいというポリシーを持って活動。

【野球部甲子園出場】

1980 年夏に都立高校として初出場。国立市民を熱狂の坩堝に巻き込んだ。初戦に昨年春夏優勝の強豪箕島高校と対戦。0-5 で負けたが、文武両道の「都立の星」「野球部の原点」としてさわやかな姿を全国に印象付けた。



試合スコアボード

取材を終えての感想 (大井)

地域との交流は生徒が主体的に活動を展開している。国高祭にその真髄が凝縮されている。

石田健司 副校長先生の言葉

本校は 80 年にわたり地域の皆様によって支えられてきました。最近では、友だちとおしゃべりに夢中になって大声を出したり、大学通りをふさぐように歩いてしまったり、近隣の皆様にもご迷惑をおかけしていることもあったと聞きます。が、本校は、時代が変わっても、昔と変わらず前を見る生徒たちが自慢です。勉強、部活、行事、その他の活動等、常にまっすぐ全力で向き合う生徒たちです。これからも、時には厳しく、時にはやさしく見守っていただきますよう、よろしくお願いいたします。

参考 都立国立高校 HP、『甲子園への道』、『国立東南部自治会 60 周年記念誌』、『学校案内』

【図書紹介】『サイレント・ブレス』 看取りのカルテ (南 杏子：幻冬舎文庫) 三好 紀子

私は在宅で最期を迎えたいと思っている。医者・看護師・ヘルパーをはじめとして様々な助けを借りなければ死にゆくことはできない。自分のためにこれほどの人がかかわってくれるのかと驚きと感謝の気持ちを抱いて読んだ。介護はどんな志を持つ「人」がかかわってくれるかで変わるだろうとも思った。それは今の暮らしでも同じ。自分がどんな気持ちで人に向き合っているか、それが日々の暮らしの質を決定しているのだと思わされた。以下、様々な死に向かうケースの内3つをまとめてみた。

(1) 若いがん患者の苦しみ スピリチュアル・ペイン

なぜ自分が死ななくてはならないのか、これまで懸命に生きてきた意味はあるのか？

この問いに自分で答えが見いだせず苦しい時、宗教者の助けを借りることができる。

仏教が教える死への苦悩の対処

- ① 「死に至る原因と闘う」
- ② 「死を受容する」
- ③ 「受容できない自分を受容する」
- ④ あきらめ (諦念 あきらかに見る)



(2) 治る見込みのない家族を看護する母が疲れてしまい、貧困が追い打ちをかけ、息子を捨てて家出をしたケース

介護を受ける若者は高齢者のように車椅子で生活し、彼ら以上にチューブにつながれているけれど、生かされているのではなく、自らの力で生きていた。ネットでつながっていた。そして自分を捨てた母が戻ることに賭けた。しかし母は戻ってこなかった。

(3) 終末期医療では、医療者側も家族も逆算の思考でいこう。

死というゴールから逆算して、残された時間をどう使うかみんなで作ろう。医療にはおのずと限界があるが、多くの医師は闘いをやめる事を敗北と勘違いしている。闘うだけではいずれ立ち行かなくなる。その時求められるのは、死までの残された時間、ゆったりと寄り添うような治療がいかに大切かを医師自身が身をもって知ること。

本を読むと、医師も患者と一緒に悩み、考えを深め、在宅医療とは何かをつかみ取っていく人間らしい姿が描かれていて、患者となる自分の将来像をこれまで以上に具体的に想像することができた。

知っておくべきことは

- ① 患者がことばや反応を失っていき、回復しないことがわかっていても、胃ろうを中止する決断はできなかった。人を餓死させる行為のように思われるから。しかし患者が何らかの意思表示をしていれば、周りは悩まずに患者の望む最期を実現できる。
- ② 保険診療による訪問診療は、診療所の半径16キロ以内に住む患者を対象とすると、厚生労働省の通達で定められている。

著者の南さんは、現在上映中の映画「いのちの停車場」の原作者でもあります。単行本刊行のあと、<死は「負け」ではなく「ゴール」なのです>と述べています。

図書紹介 『どこまでやるか、町内会』(紙屋高雪、ポプラ新書(2017))

大井利雄

(はじめに)

自治会・町内会の「会員の高齢化、役員のなり手の不足」は全国共通の問題である。

本書で紹介されている事例は、国立市にとっては該当しない項目もあるが、町内会・自治会の役割について、整理されている。筆者はくり返し、町内会は「権利能力のない社団」「強制加入団体でない任意団体」であり、ボランティアが原則であると指摘。その基本に沿って、事例を紹介し、根底にある考え方を提案する。究極は「如何に楽しめるか」にあるようだ。

2014 年介護保険が改訂され「医療・介護総合法」を制定、要支援と認定された人のサービスが、介護保険の直接の給付から外され、「新しい総合事業」という名前で、NPO や町内会などに回してもよいという制度に変わった。ケアと切り離して日常生活の支援をする受け皿として、業者、サークル、ボランティア、町内会を考えた。

2017 年 7 月より開所しているひらや照らすは、まさに介護予防・日常生活支援総合事業における通所型サービス B 事業として運営している稀有な居場所のようだ。(大井感想)

NPO 法人「暮らしネット・えん」は「公的責任から離して民間に任せる考え方、NPO やボランティアへの無理解と蔑視があり、安あがりの道具と考えている」のではと指弾する。

国がめざす方向(地域包括ケア)理念は良いが、実態はただの互助、軽度者を削って地域住民にやらせるという流れではないかと筆者は危惧する。高齢者の福祉に対する公的な責任が「地域で担う」という看板のもとに曖昧になったともいえる。

高齢者の安否や福祉に責任を持つのは、本人、家族、行政であり、町内会はいくまで「お手伝い」であり、貧困対策、子ども食堂、学習なども防災と同様行政が取り組むべきことと、町内会がなすことの境界の曖昧さをも指摘する。

以上のことをふまえて、町内会はあったほうがよいとして、参加することに喜びや生きがいを持つために、右図のようなステップを紹介する。

【住民同士の交流や情報交換を欠かすことができない】

・仙台市太白区の鍵取ニュータウンは、129 世帯 250 人は 85% の住民が防災訓練に参加するという。『自分がいなかったら、町内会が心配するだろう』という住民と町内会の信頼で、住民みんなでの顔が見えてくる町づくりを目指して様々な仕掛けを工夫して好結果を出している。

- ・いざというとき 「町内会ルートより 日頃の「近所付き合い」
- ・大事なことは何処が本来責任をもつべきかを明確にすること。
- ・防災は「災害を防ぐ」というテーマより「災害時の救助」
- ・避難の徹底という「公助」が実行されずに、町内会という「共助」にかかわって危険な目にあったといえないか。

【町内会にとって不可欠な仕事】

- ・コミュニティー意識を育てる、お隣さん意識を養うこと(住民同士が声を掛け合えるような関係)
- ・災害時に発揮されるのは「共助」ではなく「近助」ではないか。
- ・隣の人と挨拶している。それが大きな防災である。(各種の防災訓練をすべて行うことは難しい)
- ・行政や企業にできないこと 人間本来の共同精神を引き出すこと。
- ・ボランティア(志願)の原理は、やりたい人がいれば仲間にする。
- ・サークル・NPO 原理への転換(完全無償の徹底)
- ・呼びかける側が必要性或魅力をわかりやすく説かねばならない。
- ・夏祭りしたいからやる 参加しないと怒る権利はない。
- ・厳格にその地域の代表とみなすこともない。代表ではあるが、絶対視はすべきでない。
- ・ゆるやかな町内会が増えている。

お台場合同自治会 負担は避け、地域毎に主張

会費は徴収しない、ごみの集団回収への区からの報奨金などを収入源に各種行事に取組む。

800 世帯、エリアで建物ごとに独立した自治会 独立した自治会のない棟で合同自治会を結成。

町内会・自治会活動本来の楽しさが浮かび上る。

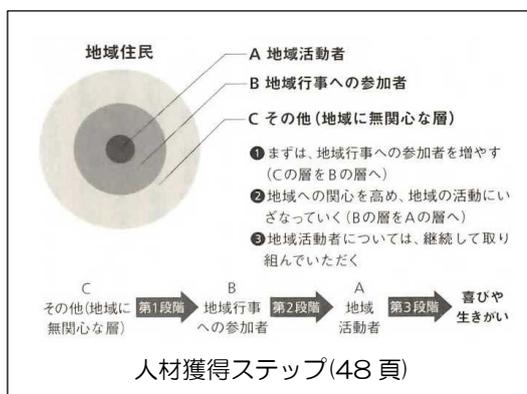
- ・地域のために良いことをしながら、人と交流する楽しさを体感する。
- ・今ある事業への発想転換をする。

散歩をするついでに防犯パトロール、腕章やジャンパーをつけてアピール。

- ・「防災といわない防災」 夏祭りで 消火器での的倒し 非常食をもってピクニック。
 - ・無理な動員はかけず、やりたい人が実行委員になって参加したい人が参加する。
 - ・実質的なことを大事にして、あまり形式にこだわらない。
 - ・アリストテレスは理想的な共同体の規模について「一目で見渡せる程度」ということを条件にしている。
- 顔がわかり、気心が知れる。世帯数は「顔が見える範囲」とか「お隣さん意識をもてる範囲」が適当ともいえる。

事業ごとに少数のボランティアが核になって楽しむ方式で行う。

- ・ゆるやかなコミュニティー意識(お隣さん意識)を育てていくことで、明らかに生活の質は向上する。
- ・どんな事業も、支えるのは人である。



まちの活動通信から

文責 大井・宮武

<p>すずらん 110号 4月号</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動案内(食事サービス、ディサービス・2か所) 2. ご挨拶 今年で22年、個人活動から数えて創立34年目 代表高橋力 3. 『すずらんのおいしい料理集』から「ひじきの煮物」を紹介 4. 新人スタッフ、会員紹介、発行遅延のお詫びなど
<p>子どもオンブズマン通信 特別号 5月発行</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. くにたち子どもの人権オンブズマンの紹介 ①子どもの気持ちを一番大切に②秘密は守る③あなたと一緒に考える④子どものための問題解決を目指す 2. 子ども相談員からのメッセージ 一緒に考えましょう。気楽に連絡してください。 3. 子どもオンブズマンの紹介 オンブズマンは、スウェーデン語で「代理人」と意味。二人の弁護士の成瀬大輔さんと掛川亜季さんが担当します。 4. 連絡先 フリーダイヤル 0120-70-7830 月～金 8:30～17:00(祝日除く) 5. オンブズマン事務局 042-505-5127(国上市役所 北庁舎 27番窓口)
<p>東くにっこ通信 第13号 6.10発行</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. カラー印刷 A4、4頁、印刷部数1800部、自治会会員全戸配布 2. 東地区の自治会に紹介(国立東の会、国上市東南部自治会、国上市環境改善促進会) 3. グループ探訪(くにたち東健康吹矢同好会)会費1000円毎木曜日9:00～12:00 4. 東地域のおすすめ散歩みち(ウォーキングマップ) 5. 地域の居場所紹介(い～い湯だな、介護者家族の会、介護者交流会他)
<p>「在宅ケアを考える会」通信 No72 6.14発行</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小規模多機能居宅介護「東二丁目の家」説明会 あおやぎ会の運営を応援したい 2. 学習会「みんなで知りたい看護小規模多機能」を振り返って 介護、ケアは人なり、在宅ケアのハードル」を下げることを期待 サービスの受け方で質は変わる 3. 「Aさんの在宅看取り」(通信No71)から 人間を見る力、互いを粗末にしない介護 4. 会員の皆様の近況 私は「悔いはありません」といえる生活をした葉書 5. 映画「ファザー」の紹介 認知症を理解し、当事者の閉ざされた世界を垣間見る
<p>公利連だより</p>	<p>7月休刊、7月3日(土)9:00より総会実施</p>
<p>ほかほか 子育てひろば 情報 No186 7.1発行</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育てグループ『地域グループ』案内。青柳親子の会(青柳福祉センター)、イーストキッズ(東地域防災センター)、坂下の会(坂下集会所)、北ひろば(北福祉館) 2. <栄養士ミニ講座>7月14日(水)10:30～11:00 パクパク三回食 3. 「月齢グループ」のお知らせ 市内在住の令和3年3月生まれのお子さんと保護者
<p>くにたち福祉会館福祉センター - なごみ No.715 6.20発行</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 梅雨時の部屋干し・生乾き臭いの正体…? 『モクサラ菌』が水分があるところで繁殖。対策①洗濯物は溜め込まない②抗菌タイプの洗剤・柔軟剤を使う。③洗濯後はすぐに干す④エアコンの除湿機能を使う⑤重なり合わないように干す。 2. 七月七日の七夕の願い コロナ禍がおさまりますように…… 3. 七月のうた 楽しもう切子グラスで日本酒我家で乾杯コロナとんでけ(北島) 4. サークル会員募集(三味線の会、和おどり・蝶の会)
<p>国会会中の会報 No31号 6.30発行</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総代会開催(6/6)令和2年活動報告、3年度計画(会員増強および部門活性化ほか) 2. おしゃべり会(いさんガイド天満宮近辺を散策、スマホ初心者講習会、うちわにちぎり絵) 3. 環境美化:大学通りの掃き掃除、夏用ポロシャツ新規作成(ライトブルーに白文字) 4. 「なかなかいい会」こども食堂(たまご食堂)、「100万人のクラシックライブ」を演奏 5. 防災訓練(7/18 10時から中防災センターで実施)(初期消火、AED、包帯法など)
<p>年輪 第104号 No104号 7.1発行</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国上市老人クラブ連合会 コロナ禍の定期総会実施、会員数1,139人 2. 3年事業計画(コロナで中止相次ぐ、医療講演会(7/4)、全国社会奉仕の日他) 3. 会員の随筆多数、くにたち文芸広場(俳句・短歌)
<p>国上市地域包括支援センター 福祉会館窓口通信</p>	<p>7月号 休刊</p>
<p>ひらや照らす通信 6月号 7.1発行</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 故人の遺志に應える如く、庭へ愛情を注ぐ成瀬さんの思いの心情を活写する。 2. イベント「桜の木細工」の紹介 処分された大学通りの桜の木を使って新しい命を与える。また工作そのものが、麻痺や痺れ、会話など作業療法に役立つことができる。 3. 人紹介 明石秀雄さん 複数の病気を克服、奥さんを介護しながら明るく皆に勇気を与える、弱みを強みにと病氣自慢のダジャレ得意の稀有な人。
<p>みどり会会報 第236号 7.1発行</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 6月の運営委員会は、協議事項なく中止。 2. 北大通り清掃活動 6/13(日)・27日(日)、暑くなるが早めず現状のまま9時～ 3. 消火訓練 簡易消火ポンプの起動確認を行う。6/13(日)於防災倉庫 4. 防災部会 6/27日(日) 「災害対応向上訓練」を、五小校庭・市役所西側広場で実施 5. ハイキング同好会 6/13(日) さいたま緑の森狭山自然公園、狭山丘陵散策 6. 写真趣味の会 撮った写真を北福祉館に毎月取り換えて展示する。市内でみどり会のみ

絆の会6月度活動要点

大井利雄

- 1) 7月以降取材予定の確認(自治会、学校関係は9月末までに精力的に取材)
 2) ひらや照らすサロンでわくわく塾のテーマをとりあげられないか。検討続行
 次回定例会 7月10日(土) 10:00~12:00 ひらや照らす

情報【A:カフェ B:交流会(懇親会・食事会・手芸など)、B2 交流会(多文化共生、多世代)

C:交流会(介護・認知症・引きこもり) D:情報交換 E:健康他、F:講演会・講座・研修・映画会】

開催実施・内容は、コロナ防止対応など都合により変わりますので、事前にご確認ください。

区分	日	時間	題目・内容	主催	場所	連絡先/備考
C	土日祝日を 除き随時	09:00~18:00	お悩み相談会	不登校支援「ゆとりある」会	Zoom	✉ yutreal.info@gmail.com ☎ 070-8327-2673
B, C	7/01~毎水 ~土曜	10:00~16:00	子どもから高齢者多世代交流の場	ひらやの里	ひらや照らす 富士見台2	042-800-1661 プログラムにより実費あり
C	6,7月休会	10:00~12:00	情報交換	四丁目の集い	グランソシエ (E) 集会所	野村:090-9648-8497 第一木曜開催
E	7/01(木)~ 毎木曜日	10:00~	湯ったりウォーキング	地域包括支援センター	東地域防災センター、鳩の湯	地域包括支援センター:576-2123 市内在住 65歳以上の方
B, C, E	7/02(金)~ 毎金曜	10:00~15:00	南区ふれあいカフェ 13時~いきいき百歳体操	南区公会堂自治会	南区公会堂	573-8880 南区公会堂、南区自治会員参加費無料
F	7/02(金)~ 毎金曜日	10:00~12:00	わぁーい親子リズムによつといで	新婦人の会	福祉会館4階 大ホール	浜 574-0661、会費100円 (おやつ代)
E	7/02(金)毎 金曜日	午前・、午後 の部、時間帯 選択	ご近所さんでレッツ・ ゴー!	地域包括支援センター	福祉会館、西 福祉館など6 か所	地域包括支援センター:576-2123 毎金曜 参加無料 65歳以上、少人数申し込み制
B, C	7/02(金)	13:15~16:00	くにたち地域ふれあいの会	国立人倶楽部 080-3484-4197	中地域防災センター	長藤: 事前予約要、資料代100円、次回 8/6
B, C	7/03(土)~ 毎火土曜	13:30~15:30	ペンぎんカフェ 土曜日:介護者交流会	ペンぎんサロン	東 3-11-12- 103	鈴木:505-4140 参加費300円(初回無料)
C	7/03(土)	13:30~16:00	分かち合い、支え合い、学びあいの場	ひきこもり家族会ここから	くにたち福祉会館	社協 042-580-0294 参加費500円 次回
C, E	7/03(土)	14:00~16:00	ほっとサロン	すてつき	ひらや照らす	すてつき事務所 576-3206 会費100円 次回 8/7
C, D	7月未定 第1日曜	14:00~15:30	ふらっとカフェ:多世代交流の居場所	向こう三軒両隣@くにたち	ペンぎんサロン(東3)	吉田:080-1136-6036 参加自由 飲み物代100円
C	7/08(木)	13:30~16:00	定例会	在宅ケアを考える会	福祉会館 和室大	山本:575-9219 次回8月休み、9/16
C	7/08(木)	14:30~16:00	親の居場所	ひきこもり家族会ここから	ひらや照らす	社協 042-580-0294 次回 8/12
E	7/09(金)第 2,4金曜	10:00~12:00	「いい湯だな」 軽い体操と入浴	ゆかいゆ会	東都営住宅集会所、鳩の湯	包括福祉会館内窓口 042-580-1294 市内在住 65歳以上
B	7/09(金)	13:30~15:30	おしゃべり会「国立の昔を語る」第2弾	中の会	中地域防災センター	吉田:090-3508-3641、
C, D	7/10(土)	10:00~12:00	月例	絆の会	ひらや照らす	大井:090-6949-8984
C	7/10(土)	13:00~14:15	メモリーカフェ	NPO パーソン・センター ード・ケアを考える会	ひらや照らす	村田:080-2025-7416、参加費100円、要事前予約次回 7/10
C, D	7/10(土)	16:30~18:30	運営会議	ひらやの里	ひらや照らす	大井:090-6949-8984
C	7/11(日)	13:30~15:30	認知症カフェ	国立市在宅療養 相談窓口(注)	オーブ 1階地 域交流センター	国立市在宅療養相談窓口: 042-569-6213 当事者関係のみ
注:共催:東京都地域連携型認知症疾患医療センター/医療法人社団つくし会新田クリニック/国立市						
D	7/11(日) 7/25(日)	14:00~15:00	情報交換	なかなかいい 会	中地域防災センター	社会福祉協議会:飯田 580-0294 たまご食堂実施後
C	7/12(月) 7/26(月)	13:00~16:00	引きこもり当事者の会	国立市社協	福祉会館3階 和室	社協 CSW(前田・飯田) 580-0294
D	7/13(火)	9:25~9:57 予定	聖火リレー	東京都聖火リレー 実行委員会	国立駅から市役所	

区分	日	時間	題目・内容	主催	場所	連絡先／備考
C	7/15(木)	13:00~16:00	介護者家族の集い	えんがわ・あい	福祉会館 3F	矢崎・田村：577-4122 参加費 200 円、参加自由次回 8/
C	7/16(金) 第 3 金曜日	18:30~20:00	くにたち依存症を考える会 輪かち逢い	くにたち依存症を考える会	福祉会館 3F 和室	担当：宮内 080-4142-4043、次回 8/20
B	7/17(土)	13:30~15:00	懇親会	難病障がい者と家族の会	ひらや照らす	佐伯：090-2163-7609
B	7/20(火) 毎第 3 火曜	13:00~16:00	交流会	遊楽会	中平地域防災センター	高橋：575-5272,
C	7/20(火)	14:00~16:30	「ひきこもり UX 女子会」	国立市・清瀬市 (広域事業連携)	公民館地下ホール	児童青少年課、先着 35 名、保育付き無料 (UX:Union eXperience(固有の体験))
B2, F	7/22(木)	19:00~21:00	ニヤチャンさんのベトナムのお話し	くにたち国際友好会 WING	会員個室 ZOOM による交流	和田：090-3497-2110、会員限定、非会員 300 円
C	未定	14:00~15:00	第 45 回陽だまりの会	地域包括支援センター	福祉会館 3F	地域包括支援センター：576-2123 定員 20 名
C	未定	13:30~16:00	なつかしのフィルム映画上映会	元気会	東福祉館	社会福祉協議会：飯田 580-2123 予約申込 20 名
B	未定：世話人会が代行	10:00~12:00	西のまち会議	くにたちの西がいちばん！PJ	西福祉館	社会福祉協議会：580-0294
B	再開未定 第 2 木曜	12:00~14:00	西の食卓	くにたちの西がいちばん！PJ	西福祉館	社会福祉協議会：580-0294 参加費 100 円昼食持参
B	未定	10:00~11:30	月例	ゆる仲の会	中地域防災センター	河村・酒向：576-0939 昼食有料、マスク着用、飲料持参
B, C, E	再開未定 毎火、木曜	10:00~17:00	矢川サロン (介護生活予防)	呼ぼう会	矢川北団地第 2 集会所	門前：080-6810-6104
B	再開未定 第 4 火曜日	18:00~20:30	飲みニケーション会	中の会	Daimo576-4281	吉田：090-3508-3641
B, C	5 月閉鎖	13:00~16:00	みんなの部屋(習字, 手芸, 麻雀, 他)	えんがわ・あい	東 1-16-27	丹波 090-3247-8848 利用料 100 円
B	再開未定	13:00~18:00	サロンえんがわ 食事とお喋りの会	みんなの部屋【あい】		矢崎：090-3247-8848
F	再開未定	11:00~12:30	うたごえ倶楽部	カサムシカ	カサムシカ	辰田：080-5878-2364 有料
F	再開未定	11:00~12:30	サロンコンサート	カサムシカ	カサムシカ	辰田：080-5878-2364 有料
B	再開未定	17:00~19:00	にぎわい夕餉の会	カサムシカ	カサムシカ	辰田：080-5878-2364 有料
B, C	再開未定	10:00~14:00	歌・体操・食事会 他	シニアプレイルーム	富士見台第 3 団地集会所	田村・富田：574-7463、毎月最終月曜、申込要

市の説明会・公聴会 (変更もあるので、傍聴時間は、HP などで確認してください)

7 月 16 日(金)	19:00~21:00	国立市介護保険運営協議会	市役所	事務局：高齢者支援課
-------------	-------------	--------------	-----	------------

きずな折込川柳 お題 7 月 (日傘・ひがさ) 8 月 (盛夏・せいか) 選 明石秀雄

日を背にし ガンマン気取りで 颯爽と (明石)	陽が沈む 街灯のもと 妻を待つ (今村)
日ノ本に ガンと居座る 三人衆 (明石)	ひとり者 ガラスのころろ 酒沁みる (今村)
暇な日は ガーデニングと 菜園へ (明石)	ひたむきに 頑張る君に 射すひかり (今村)
七月(ひちがつ)は 頑張れ五輪!の 3 週間 (猪原)	批判受け がんばりぬくぞ 匙投げず (大井)
瀕死にて 崖っぷちに立った 祭典だ (猪原)	日は長い 我慢第一 先をみる (大井)
ひとりぬけ 我慢の日々よ さようなら (猪原)	開かずも ガラスの窓だ 探せると (大井)
歪み生み ガチで淘汰の サービス業 (猪原)	日傘さし 頑はない児が 颯爽と (宮武)
	昼寝する 願望なれど さはゆかず (宮武)

「絆だより」は次の場所においてあります。情報内容についてのご要望もお待ちしています。

市役所高齢者支援課、福祉会館 (1F、2F、なごみ)、西福祉館、東福祉館、北福祉館、南区公会堂、南市民プラザ、北市民プラザ、公民館、中央図書館、ひらや照らす、芸小ホール、KF まちかどホール 他
バックナンバーは中央図書館、公民館、ひらや照らす、くにたち郷土文化館に、置いてあります。FB でも閲覧できます。

各団体の活動、発行定期冊子も逐次紹介致します。情報をお待ちしています。

